

「水災害意識社会再構築ビジョン」に基づく
木津川上流部の取組方針

令和3年度の取組事例の紹介

【洪水氾濫対策】木津川上流における河川対策(直轄管理河川)

木津川上流
河川事務所

【取組内容】：上野遊水地事業

【場所】：三重県伊賀市東高倉地区 他

【実施内容】

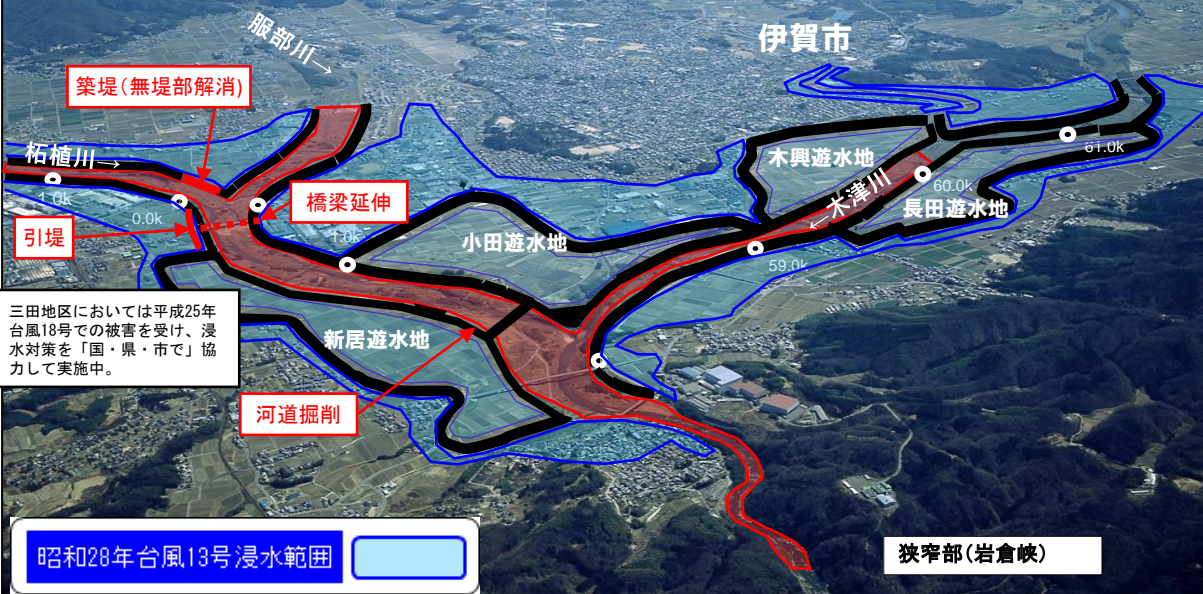
＜木津川、服部川、柘植川＞

- ・河道掘削(約8.0km)
- ・引堤(約0.7km)、橋梁延伸(1橋)他

【現状の課題】

上野盆地の常習的な浸水被害に鑑み、その浸水域540ha(昭和28年台風13号)のうち、約250haの区域を遊水地とし、川上ダムとあわせて狭窄部(岩倉峡)への流入量を抑制しつつ、河道掘削等の河川改修を行う事で上野地域の治水安全度を向上を図る。

《上野遊水地事業》



【効果】

- ・整備計画対象である昭和28年台風13号の雨量を1.1倍した洪水を安全に流下させる。

【取組内容】：土地利用規制・誘導等
（災害危険区域の指定等）

【場所】：三重県名張市

【実施内容】

- ・立地適正化計画（防災指針含む）策定に向けた検討

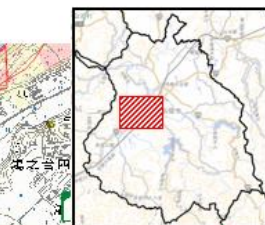
【現状の課題】

洪水浸水想定区域等災害リスクの高い区域内に多数の住居等が立地している。

災害リスク分析・特に危険な地域の抽出

名張地域の大半が浸水深3m以上で、川沿いは家屋倒壊等氾濫想定区域もある。木造家屋が密集している区域もある。

土砂災害警戒区域や浸水想定区域が広範囲にあり、住宅等も含まれている。



両岸が家屋倒壊等氾濫想定区域となっているが、住宅等が多く含まれている。

避難所がない。

■北西部

一帯が浸水深3m以上で、家屋倒壊等氾濫想定区域にもなっている。



両岸が家屋倒壊等氾濫想定区域となっている。橋が決壊した場合、北岸の集落が孤立してしまう。避難所がない。

避難所の周囲が浸水深3m以上になっている。

土砂災害警戒区域が広範囲にあり、住宅等も含まれている。避難所がない。

一帯が浸水深3m以上で、家屋倒壊等氾濫想定区域や土砂災害警戒区域もある。住宅等も区域に含まれているが、避難所がない。

- ・土砂災害（特別）警戒区域の表示
- ・洪水浸水想定区域・家屋倒壊等氾濫想定区域の表示
- ・避難所・避難場所の表示

- ・この他、災害ハザード情報と都市機能（主に病院や福祉施設等）の立地を重ね合わせた図を用いて居住誘導区域や都市機能誘導区域の設定、防災指針に記載する防災減災対策を検討する。

【効果】

- ・水災害リスクを考慮した安全なまちづくりの実現（防災意識向上、防災・減災機能強化）

【土砂災害防止に関するソフト対策】

奈良市月ヶ瀬小中学校における土砂災害防止に関する出前講座

【取組内容】

小中学生対象の土砂災害防止に関する出前講座

【場所】

奈良県奈良市（月ヶ瀬地区）

【実施内容】

日時：令和3年7月9日（金）

場所：奈良市月ヶ瀬小中学校

参加者：7年生（中学1年生）、8名

【開催概要】

- 奈良市月ヶ瀬小中学校で、土砂災害防止に関する出前講座を行いました。
- 講座では、過去に奈良県内で発生した災害や土砂災害の基礎知識について、動画などを用いて説明しました。紀伊半島大水害で多発した深層崩壊については、模型を使ってメカニズムやどのような危険があるかについて学んでいただきました。
- また、生徒が自身の学習用PCを用いて自宅から学校までの通学路付近の土砂災害警戒区域等を確認したほか、当日学校周辺で発生した大雨や土砂災害警戒情報に関する情報も確認していただきました。



【開催状況】



・当日、付近で発生した大雨に関する情報をリアルタイムで確認する生徒

・表層崩壊と深層崩壊のメカニズムの違いを学ぶため、模型を用いて実演

・自分の学習用PCを用いて、自宅や通学路付近の土砂災害警戒区域を確認

・確認した土砂災害警戒区域を地図に書き込み、オリジナルのハザードマップに

【効果】

- ・身の回りにある危険を確認し、土砂災害に対する早期の警戒避難の重要性を認識していただきました。

【避難体制の強化】宇陀市自主放送チャンネル

「うだチャン11」を活用した住民に対する防災知識の普及

宇陀市

【取組内容】：防災知識の普及

【場所】：奈良県宇陀市

【実施内容】

住民の防災地意識の高揚を図るため、CATVを活用し、避難情報や避難方法等の防災力向上を図る。

【開催概要】

宇陀市の情報発信ツールの大きな強みであるケーブルテレビ「うだチャン11」（市内加入率98%）を活用し、市の自主製作による「身近な防災対策」（水害・土砂災害の防災情報の伝え方）や「ハザードマップの見方」（宇陀市版）を作成し出水期を中心に放送を行いました。

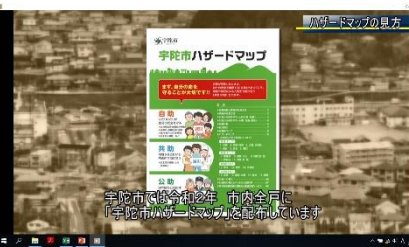
【開催状況】



5月21日～12月31日の間 1日6回放送（放送回数 1,350回）



11月1日～12月31日の間 1日6回放送（放送回数 312回）



その他、消防団募集PVや防災サポーター養成講座等を放送。4月からは「防災入門～南海トラフ地震から命を守る～を放送予定

【効果】・基本的な防災知識を得ることで災害時に安全かつ迅速な避難・誘導が行える。

【取組内容】 地区タイムラインの作成

【場 所】 京都府相楽郡笠置町

【実施内容】

地区ごとに応じたタイムラインの作成に係る説明会の実施及び策定支援の実施

【現状の課題】

笠置町内では6地区の集落があり、これまで全地区においてタイムラインが未作成の状態。現在6地区中4地区の作成が完了し、令和3年度内において残り2地区の作成を予定。

防災士による説明会



説明後

タイムライン作成時



- 防災士によるタイムラインの意義等の説明
⇒参加者の理解等を深める
- 各地区の中核を担う自治会役員を参集
⇒地区住民への周知徹底が図れる
- 町作成の防災マップをはじめ様々なツールを使用
⇒ハザード情報の収集に努め、住んでいる地区の状況を把握

- 各地区ごとにタイムラインの作成に着手
⇒ワークショップ形式にすることで意欲的に着手
- 防災士や京都府職員、町職員がサポート
⇒充実したサポート体制のもと取組が可能
- 水害と土砂災害のそれぞれについて素案作成
⇒後日、地区ごとに素案を協議し成果物を町に報告(済)

【効果】

・地区別のタイムラインの作成により有効な避難実行性の確立及び向上が図られた。

